



# いわきの子

岩城小学校  
学校便り  
第58号  
R6.2.14  
文責：佐藤

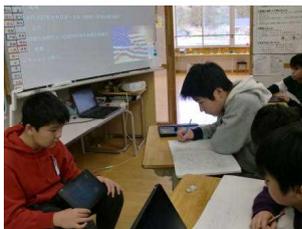
〈学校教育目標〉「ふるさとに誇りをもち たくましく生き抜く 子どもの育成」

## 第3回学校運営協議会

2月8日（木）、第3回学校運営協議会を行いました。11月6日の第2回学校運営協議会は本校でインフルエンザが流行していたため紙上開催としたので、5月以来久々の授業参観となりました。参観後には、今年度の学校の取組と「保護者アンケート」の結果、児童と教師の「いわきっこ学びのアンケート」の結果について私から説明しました。委員の皆様からは参観しての感想を交え、来年度に向けてのご意見をいただきました。



- ・マスクをしていない子どもが増えて、明るくなったように感じた。元気をもらった。
- ・落ち着いて学習に取り組んでいた。先生方の「学んでほしい」という情熱、「学びたい」という子どもたちの思いが伝わってきて、感動した。先生方の工夫が見られた。
- ・5・6年生のグループ学習が、人の意見を聞いたり教え合ったりできていてよかった。
- ・今後も「学校が楽しい」「勉強が分かる」ということを継続して行ってほしい。
- ・授業を乱す子どもがいると学校へ行きたくない子どもが出てくるので、不登校が出ないようにしてほしい。
- ・現在は不登校0というのは素晴らしい。しかし、言葉、態度、暴力などいろいろあるので、注意して見て行ってほしい。乗船体験は来年度も実施したい。スポ少も応援してほしい。
- ・子どもが卒業するまでに付けるべき力を明確にして、連携して取り組んでいきたい。
- ・ゲームの影響なのか、言葉遣いが悪い。学童でも指導している。
- ・ワークシートに取りかかれずにいる子ども、グループの話し合いに入っていけない子どもが見受けられた。TTなど、先生をもっと増やすことができればいいのに。
- ・あいさつ運動ではあいさつが増えたような感じがするが、一方で、あいさつをしない子どもがいる。あいさつができない子どもがあいさつできるようにしていきたい。



※ 12月にご協力いただいた「保護者アンケート」の結果については、20日（火）PTA参観日の総会資料に掲載し、総会でも触れたいと考えています。ご協力ありがとうございました。

## 運営委員会を探せ!!!

〈日時〉

6年生・令和6年2月16日 昼休み

指定の場所にしっかりと  
集まって下さい!

〈この行事の目的〉

冬に遊ぶものがあまりないということで、  
1年生～6年生を対象に「運営委員会を探  
せ!!!」を開きます!全校のみんな  
でより仲を深めましょう!

〈指定の場所〉ランサルーム

4つの「ない」

走らない・笑わない

さわがなくて しゃべらない

運営委員会 委員長 佐々木

## 運営委員会をさがせ!

冬は遊びが限定されるので全校のみんなを楽しませるために、運営委員会で相談して「運営委員会を探せ!!!」を企画してくれました。隠れている運営委員をみんなで見つけ出します。参加できる日時が学年で決まっています。

左は各学年に配付された案内で、右は探してほしい委員のポスターです。なかなかしゃれたポスターで、これだけでもワクワク楽しくなってきます。

今年度の児童会は自分たちの生活から問題を見つけ出し、代表委員会で解決策を話し合っ改善できるよう上手く機能しています。こうして自分たちで考えて新しいことに挑戦できているのは素晴らしいですね。



## 6年 「未来の岩城とこれからの自分」

6年生の総合的な学習の時間に講話をしていただきました。

1月31日(水)の講師は、今年度4年2組がお世話になった三浦\*\*先生です。先生は5年生の時に、日本人学校の先生になりたいと思っていたそうです。海外の大学院生だった時のアルバイトの話や実際に海外で日本人学校の教師として働いていたときの話をしてくださり、実際に体験をしてみないと分からないことがあることや面倒くさいことをいかに簡単(楽)にできるようになるか(考えて行動に移すこと)について教えてくださいました。自分の夢を叶えるために今を大事にすること、「自分で考え、判断し、行動すること」(自己決定)を大切に!ということ学びました。

2月8日(木)の講師は、松ヶ崎小・中学校を卒業した先輩 佐々木\*\* (Tsvi Sadan) さんです。中学生時代の夢は、いくつかの言語を話せるようになりたいということだったそうです。日本の大学院、エルサレムの大学で言語学を学び、その後約30年間大学に勤務されました。日常的に使える言語が日本語、英語、ロシア語、ヘブライ語・・・とあるようなので、自身の夢は叶えられたということです。しかし、研究をしていく中で言語の闇を感じ、自らお仕事を辞められたそうです。子どもたちには、言語でいろんなことは説明できるけれど、「直接体験をしてほしい」「レッテル貼りをしないようにしてほしい」と伝えてくださいました。紛争や戦争もレッテル貼りをやめないことにはなりません。

経験に基づく貴重な講話をどのように受け止め、自分に生かすのでしょうか。



